

あの戦争を語り継ぐ
平和都市宣言
30周年記念連載⑪

川上誠一さん 89歳

富塚地区在住

陸軍幼年学校・士官
学校の思い出

私は昭和2年に富塚で男ばかり6人兄弟の長男として生まれました。元陸軍将校で当時は傷痍軍人(戦傷を負った軍人のこと)だった父に勧められ、旧制東葛飾中学2年の時に陸軍幼年学校(陸軍の全寮制教育機関)を受験し入学しました。

幼年学校は全国に6校ありましたが、併せても900人しか入れない狭き門で、東葛中学校からも150人が受験して私を

含め3人しか入れませんでした。合格後、「川上とほんな奴だ」とたくさんの上級生が見に来たことを覚えています。

私は仙台の幼年学校に配属となりました。3年間の幼年学校

の間は最高の教育を受けられたと思っています。学校では午前は学科で、午後は演習のほかに山登り、スキー、水泳と何でもやりました。この学校には頭が良く、本や辞書を一度見ただけで覚えてしまうような人たちがおり、勉強についていくにはとても苦労しました。教官は皆大学教授並みの優秀な方ばかりで、「川上、ちょっと遊びに来い」といって休日自宅まで来て、そうがてら勉強を教えてください、決して落ちこぼれることのないよう生徒の面倒を見てくだ

さいました。

昭和20年に朝霞町(現埼玉県朝霞市)の陸軍予科士官学校(士官候補生を養成する教育機関)に入学しました。同期は3千人近くと大勢いました。

入って早々の4月に米軍の爆撃に遭い、同期が25人くらい防空壕の中で生き埋めになり亡くなりました。空襲がとも多く、逃けている時間のほうが多かったです。そのころには銃はあっても弾がなく、せめて弾があれば反撃できるのにと、悔しく感じました。演習で4きほどの爆弾を抱えて敵戦車に飛び込む訓練をしましたが、その時にもうこの戦争は終わりだと思いました。

■ 企画政策課男女共同参画室内線 3354